

■ 意 見 書 ■

私学助成の充実強化等に関する意見書

鹿児島県の私立学校は、多様化する県民のニーズに応じた特色ある教育の推進が求められている中で、建学の精神に基づく個性豊かな教育を実践し、当県の学校教育の発展に大きな役割を果たしている。

私立学校振興助成法第1条に規定するとおり、学校教育における私立学校の果たす重要性に鑑み、私立学校における教育条件の維持及び向上と修学上の経済的負担の軽減を図るとともに、私立学校の経営の健全性を高めることが肝要である。

今日、深刻な少子化の進行による児童生徒数の減少や教員の維持・確保、物価高騰などへの対応、端末の更新費用に係る支援やICT支援員の配置を含めたICT環境の整備、スクールカウンセラーや障がいのある生徒への介助等の支援員の拡充・強化、学校施設の耐震化・高機能化への対応、など様々な課題が山積し、厳しさを増している。

骨太の方針に明記された「いわゆる高校無償化」の実現とともに、私立中学生に対しての就学支援金制度の創設も求められている。

加えて、近年ますます国際化が進展する社会において、私立高等学校等の生徒が、海外への留学、研修・修学旅行等を経験し、将来にわたってグローバル人材として活躍するための人材育成教育への支援拡充も必要である。

これらの課題の解消には、国による全面的な財政支援及び制度の整備が不可欠である。

よって、国においては、「経済財政運営と改革の基本方針2025」において「公教育の内容や質を充実させる」、「物価上昇等も踏まえつつ私学助成等の基盤的経費を確保する」が掲げられていること、私立学校振興助成法第1条「教育条件の維持及び向上、修学上の経済的負担の軽減」の趣旨を踏まえ、令和8年度の予算編成に当たり、私立高等学校等経常費助成費補助金、私立学校施設耐震化に係る補助及びICT環境の整備に対する補助の拡充、就学支援金制度の拡充強化など、私学助成制度全般に係る支援が一層拡充されるよう強く要望する。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

令和7年10月2日

鹿児島県議会議長 日 高 滋

衆議院議長
参議院議長
内閣総理大臣 殿
財務大臣
総務大臣
文部科学大臣

上記のとおり発議する。

令和7年10月2日

鹿児島県議会文教観光委員長 岩 重 あ や

教育環境の整備充実を求める意見書

次代を担う子ども達の健やかな成長は、わたし達大人の共通の願いである。児童生徒ひとりひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと、協働的な学びの一体的な充実を図り、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた取組を行い、全国どこに住んでいても、知・徳・体のバランスのとれた質の高い義務教育を受けられることが保障されなければならない。

近年、子ども達を取り巻く環境は著しく変化し、予想を上回るペースで急速に進む少子化や子ども達の多様化などにより教育に対するニーズが多様化・複雑化するとともに、いじめや不登校といった問題が深刻化するなど、解決すべき課題が山積しており、その課題解決のためには、教職員が児童生徒にしっかりと向き合える体制を整備することが重要である。

しかしながら、その取組を担う教職員においては、令和4年度教員勤務実態調査によると、長時間労働は一定程度改善がみられるものの、依然として長時間勤務の教職員が多い実態も明らかになっている。子どもたちの豊かな学びの保障や、教職員の働き方改革を実現のため、教職員定数改善や、「カリキュラム・オーバーロード」の実態改善が求められるところである。

また、義務教育費国庫負担制度については、平成18年度から国庫負担率が2分の1から3分の1へ引き下げられ、地方自治体の財政を圧迫していることや、各自治体の財政事情により、地域にとって教育格差が生じることは大きな問題である。

よって、国においては、地方教育行政の実情を十分に認識され、地方自治体が計画的に教育行政を進めることができるよう、次年度予算編成において、下記事項が実現されるよう強く要望する。

記

- 1 少人数学級の早期拡充や教職員の負担軽減を図るため、各自治体が計画的・安定的に、加配教員の増員や少数職種の配置増など、教職員の定数改善ができるよう国全体として取り組むこと。
- 2 子どもたちの豊かな学びの保障のための「カリキュラム・オーバーロード」の早期改善に向け、学習指導要領の内容の精選を行うこと。
- 3 義務教育の機会均等と教育水準の維持向上のため、必要な財源は国の責務として保障すること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

令和7年10月2日

鹿児島県議会議長 日 高 滋

衆議院議長
参議院議長
内閣総理大臣
財 務 大 臣 殿
総 務 大 臣
文部科学大臣

上記のとおり発議する。

令和7年10月2日

鹿児島県議会文教観光委員長 岩 重 あ や